

2015年度 神輿渡御 設営安全対策

【渡御中】

≪ 1 ≫

【危険】 神輿が左右に振られ、歩道の観客を巻き込み神輿が落ち、けが人や最悪の場合は亡くなる方も出てしまう。

【察知】 左右の振れは筒先人が察知する事ができ、筒先人同士が指示を出し、対応できる。

【対策】

1. 大きく左右に振られる前に筒先人（特に後ろの筒先人）が、何か目印になるものを事前に決めておく事で（道路の白線、高張り提灯など）、常に仕切り台と正対するように神輿をコントロールできる。
2. もし大きく振られてしまったら、神輿のサイドに居る仕切り人補佐が状況を判断しメンバーに促し、（手で神輿を押さえる等）「措置」を取る。
3. それでも振れが止まらない場合は仕切り人が判断し、「カチ」を入れ神輿を止める。

※道路の幅や運行距離、休憩ポイントなど事前に現地にて調査を行います。

≪ 2 ≫

【危険】 神輿が前後にコントロールできずに他の神輿や、仕切り台に挟まれケガをする。

【察知】 先導や仕切り台の担当者が察知でき、仕切り人に報告する。

【対策】

1. 前方との距離が近い場合に関して、先導や仕切り台担当者が仕切り人に達し、「合図」を出し神輿の進行速度を落とす。
2. 仕切り人が押さえても進行速度が落ちない場合は神輿枠の中に人員を入れ、神輿の内側から押さえる。
3. 逆に、前方との距離が離れている場合は、「合図」を出し神輿の進行速度を上げる。

※本仕切り人の意思の伝達、「合図」や「指示」はこれからの渡御練習で確認致します。

≪ 3 ≫

【危険】設営メンバーが瞬時に対応が取れずに、最悪の状況では神輿を落としてしまい、関係団体や長岡J Cに迷惑をかける。

【対策】色々な想定の中での渡御練習し習得する事により、想定外の時の対応が取れると考えられるので渡御練習に参加するのではなく、参画する事が重要。

※他団体の渡御に参加し、経験を積む事で安全運行する為の設営を学びます。

≪ 4 ≫

【危険】渡御のリズムが合わない事により神輿がバランスを崩す。

【察知】設営側のメンバー全員が気付く事ができる。

【対策】

1. 仕切り人補佐の笛や、周りにいるメンバーの手拍子で担ぎ手に「音」でリズムを伝え、担ぎ手にタイミングを合わせるように促す。
2. 練習時に決める必要があるが、掛け声を「右左、右左・・・」などの誰にでも分かりやすい掛け声をかける。

※≪ 2 ≫同様、渡御練習にて周知いたします。

≪ 5 ≫

【危険】仕切り人の声や合図が届か無い事で、状況が把握できずに神輿に一体感が無く神輿をコントロールできない。

【対策】渡御練習時にメンバー全員が仕切り台に実際に立ち、仕切り人からの視野を確認する事により、神輿での死角をメンバー全員で把握でき、神輿の中で自分の役割の重要性を認識してもらい、常に仕切り台に注目する事の重要性に気が付いてもらう。

【静止モミ時】

≪ 1 ≫

【危険】全体三本締め前の静止モミの時に、神輿が静止できずに他の神輿と接触や、仕切り台と神輿に挟まれてケガをする。

【対策】

1. その場で足踏みをしていれば静止できず、筒先人では止められない状況が考えられるので、静止モミの時は神輿枠の中に4名人員を入れ、神輿の前進を止め、仕切り台や他の神輿との距離をとるようにする。
2. 仕切り人やメンバーには、三本締め時の停止位置を周知させます。